

日本英学史学会 中国・四国支部
平成 27 年度 総会・第 1 回 (通算 72 回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成 27 年度支部総会、及び第 1 回 (通算第 72 回) 支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、講演ならびに研究発表が予定されています。お誘いあわせの上ご参集くださいますよう、ご案内申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日 時： 2015 年 5 月 23 日 (土) 12:30 受付開始
会 場： 安田女子大学 9 号館 9523 教室 (5 階) (アストラムライン安東駅より徒歩 4 分)
〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6-13-1
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (13:20～13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、平成 27～28 年度役員選出、新年度活動計画、他

開会行事 (14:00～14:05) 支部長挨拶

講演 (14:05～15:25)

「英学史研究と私」

田中 正道 (広島大学名誉教授)

日本英学史学会中国・四国支部設立時からの会員である私は、本学会にその後の私を育てて頂いたと言っても過言ではない。本講演において以下の項目について言及してみたい。

はじめに：高梨健吉先生との出会い

1. Wilhelm Viëtor 研究がとりもつ縁：A.P.R.Howatt (The University of Edinburgh) との出会い
2. Harold E. Palmer 研究がとりもつ縁：Richard C. Smith (The University of Warwick) ならびに YU-YING BROWN 女史 (THE BRITISH LIBRARY) との出会い
3. 哈爾賓学院研究がとりもつ縁：哈爾賓学院連絡所 「アブローラ (ABPOPA)」
4. 「専検」研究がとりもつ縁：高橋一清氏 (松江観光協会観光文化プロデューサー) との出会い

おわりに：「中国・四国支部」に育てられた「広島っ子」

研究発表 (15:40～16:40)

「小泉八雲のオープン・マインド、広高師 浅地昇先生を通して継承」

古川 正昭 (広島ラフカディオ・ハーンの会)

広島ラフカディオ・ハーンの会の目的は小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン) が残した文化伝統を他の地域と連携し広島で学習、顕彰を継承していくことです。2014 年はオープン・マインドというテーマで小泉八雲没後 110 年記念行事があり、私もギリシヤ、レフカダでのイベントに参加しました。そのことで、テレビ、ロコミ、ネット通信で周囲の人と共感的な交流がありました。私の高校時代の恩師もその一人です。ハーンの会の創業者、故広島大学名誉教授、田村一郎先生の論文で紹介された浅地昇先生 (広高師) を、その恩師からも知りました。これは、ハーン文学の継承が、新旧世代相互的に行われてきたことの報告です。

閉会行事 (16:45～17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

懇親会 (18:00～20:00)

広島別邸 花の舞 広島南口店 ◇会費 3,500 円 <要事前申込。直前の変更には対応できない場合があります。>
広島市南区松原町 10-1 広島フルフォーカスビル B1 (広島東郵便局向い)